

# 第11回 榎原市総合政策審議会

日時：令和4年8月10日（水）午前9時30分～

場所：Web会議

## 出席者

- 委員：東委員、飯田委員、大城委員、桐山委員、小西委員、佐伯委員、清水委員、高山委員、土井委員、中谷委員、中村委員、久委員、前川委員、榎谷委員
- 事務局：亀田市長、深田教育長、山風呂理事、戸田企画戦略部長、若森企画戦略部副部長、芦高財務部副部長、清水企画政策課長、西川企画政策課主幹、山本企画政策課長補佐、谷本企画政策課長補佐、友井統括調整員、大前主査

## 1. 開会

## 2. 市長挨拶

亀田市長より挨拶

## 3. 議事

1) 令和3年度榎原市第4次総合計画前期基本計画進行管理・第2期榎原市まち・ひと・しごと創生総合戦略効果検証報告書(案)について

## 事務局

(資料説明)

## 意見・質問

(なし)

2) 施策分野における市民アンケート及びサブ指標の提案について

## 事務局

(資料説明)

## 意見・質問

- ・指標に関してはメイン指標にしてもサブ指標にしても、毎年同じものを追いかけていくことで経年的な比較が可能になるのでは。また、施策に基づいた KPI やエビデンスにより施策を評価することが大切である。指標と取組みとの結びつきが弱いと思われるものもあったため、その結びつきが分かるように示していくことが必要ではないか。

- ・施策によっては質的評価がふさわしい場合もある。生駒市の例でいうと「多様な暮らしを進めていく」という施策があったときに、「多様な暮らしができていくか」の指標は質的となる。ただ、具体的に昨年度このような暮らし方をした方がいます、というエピソードを重ねて表現すると、評価としては強調される。全体的にエビデンスに基づく評価がまだ弱いので、このあたりを今回の課題としてってもらいたい。さらに、初めから指標を意識して取組みをしてもらいたい。
- ・施策評価シートの修正されたものを見ると、かなり読みやすくなっている。このような意識で記述すればさらに良い内容にできるのではないかな。
- ・事務局として、今回、シートへの記載について、指標の実績の記載方法や指示など調整をしたのか。  
⇒総合計画の施策評価については、そこまでの調整はしていない。総合戦略の効果検証については、取組み単位で成果指標を記載するよう指示をし、記載がない場合はこちらから提案した。それでも指標としては出てこない場合もあった。
- ・それぞれの施策分野で指標を継続して残しておくことが必要ではないか。委員や年度が変わったとしても同じ指標、同じ表現方法になっていると評価もしやすくなる。
- ・同じ指標を追いかけることが必要である。そのとき、年度間比較だけではなく、他市との比較もしていくと分かりやすくなると思う。シートの記載は事前にレクチャーを行ったが理解されていても、実際の記載になると表現できなかったのではないかとと思われるので、今後は、職員に対しても分かりやすいガイドラインを作ったほうが良いのではないかな。
- ・豊中市の例であるが、全ての指標が前年と比べ10ポイント以上上がったことを評価されていたが、なぜ上がったのかを聞くと答えられなかった。要因分析まで出来ていなかった。前年の市民アンケートと比べWEB回答の受付を始めたことが高評価につながったのではないかとの思いもあったが、その検証まではできていなかった。市民アンケートを行うにしても、単純にとりまとめるのではなく、その結果から踏み込んだ分析をしてもらいたい。

### 3) 令和5年度樞原市総合政策審議会スケジュール案

## 事務局

(資料説明)

## 意見・質問

(なし)

## 全体の意見・質問

- ・総合戦略の評価は指標にこだわって評価したためD評価が多くなったが、他の委員の評価を見るとそうでもない。取組み内容も参考にして評価されたのでは。指標と具体的な取組みを組み合わせられるとよい。
- ・施策評価シートに関して、事前質問や担当した部会で指摘したが全く反映されていない施策もある。部会で指摘させてもらったことをどこまで反映させるのか、実際に反映されないなら部会の役割が何なのか分からなくなる。次年度に向けて、事務局である程度記述の仕方についてルールを設けていただきたい。
- ・スケジュールに関して、全体の評価である施策評価と、個別事業の評価である事務事業評価が同時にになると評価が難しくなるのでは。次年度に向けて評価を前倒しにするのが良いのではないかな。  
⇒事務事業評価はかなり個別具体的な内容なので評価をしていただくことは考えてない。委員に見て

いただくのは施策評価である。評価を3月にするプランもあるが、人事異動や年度替わりで繁忙期になるため、期間としてはどうしても短期間で行わざるを得ない。評価を年度末にするのか、またがってするのか、5月にするのかは今後も検討していきたい。

- 医大と市との連携は進んでいないように思う。県・医大・樺原市が情報交換や連携事業の方向を話し合うことが重要ではないか。市や医大に連携を進めていく窓口があるのか。統括するような窓口が無いと進まないのではと思う。
- 具体的な取組みが無い中で評価ができないということであろうが、大学連携については国の補助金を受けられることができる。ただ、補助金を受けるために連携するのではなく、普段から連携を図ってまちづくりを進めていくという基盤があって、その事業・施策に関して補助を受けていくという流れでないと、なかなか難しい。大学連携については国のほうも力を入れているので参考にされたい。

## 事務局

(今後の予定について説明)

(以上)

## 4. 閉会